

「やさしい日本語・わかる日本語」が災害時の外国人を救う!

東京日本語ボランティア・ネットワーク (TNVN)



梶村勝利さん

毎週のように、当センターは日本語グループに集まる人たちでにぎわいます。さまざまな国の人たちが会話を学ぶフロアは熱気に包まれ、日本語を学びたい人が増えていることを実感します。一方、外国人の定住化や多国籍化がすすむ中、自治体など生活に必要な情報を伝える

側も、英語をはじめ多言語に翻訳し伝えるよう努めています（本文中実態調査による）。しかし緊急の場合、特に災害時には迅速かつ正確な情報を伝達する必要に迫られ、翻訳して伝える方法に頼るだけでは限界があります。そこで注目されているのが「やさしい日本語・わかる日本語」です。東京日本語ボランティア・ネットワーク (TNVN) の梶村勝利さんにお話をうかがいました。

——「やさしい日本語」について教えてください。

阪神・淡路大震災を経て、弘前大学の先生が中心になって研究がすすめられました。災害が起きた時に、どの国の人にも理解できる「やさしい日本語」で情報を提供し、外国人の助けとすることを目的にしています。「やさしい日本語」には、日本語能力検定試験3級、4級に相当する日本語約2000の語彙が使われています（その有効性

の検証には留学生も参加。「やさしい日本語」パンフレットより）。弘前大学の研究室が「やさしい日本語」で文を作るためのガイドラインをまとめています¹⁾。

——「やさしい日本語」はどのように使われていますか？

「やさしい日本語」が提案されてから15年程が経ち、今は全国的に、災害時の外国人への情報伝達的手段として知られていると言えるでしょう。最近では、自治体や国際交流協会が「やさしい日本語」活用のための冊子を作成するなど、災害時だけではなく日常生活に入り込んだ「やさしい日本語」の取り組みが目立ちます。

昨年、東京都国際交流委員会の国際交流・TOKYO連絡会では、「日本語を母語としない人への情報発信等に関する実態調査」を行いました²⁾。

調査は、全国の都道府県や東京都区市のほか国際交流協会など197団体に對して、多言語による情報発信や「やさしい日本語」の取り組み状況について聞きました。アンケートの回収率は85%ととても高く、外国人への情報発信の問題に大きな関心のあることがわかります。結果から、英語、中国語、韓国語を中心にした多言語による情報発信には97・5%が取り組み、また「やさしい日本語」には「できるだけ行う」を含めると約35%が該当し、試みが広がっていることがわかりました。しかし、一方で「やさしい日本語」については、「取り組みたいがやり方がわからない」など認識はしていても、活用するには問題を抱えていることもわかりました。

——TNVNでは「わかる日本語」研究会を発足し活動しているとうかがいました。

【原文】

大雨や強風のときには、気象庁から注意報や警報が出されます。
テレビやラジオで台風情報などのニュースが流れるので、常に新しい情報を確認してください。

【「わかる日本語」にリライト】

大雨や強い風のときは注意報や警報がでます。
TV やラジオでしらせます。いつも新しい情報を聞いてください。

【リライト最終】

大雨^{おおあめ}や とても^{つよ} 強い^{かぜ} 風の^{とき}、テレビ^{てれび}や ラジオ^{らじお}で 新しい^{あたら} ニュース^{にゅーす}を 聞^ききます。

*実際には難度により漢字は色分けされる。「わかる日本語」研究会報告/TNVN作成より抜粋。詳細は下記HPへ

どのように取り組んでいらっ
しゃいますか？

日本に来てまもない外国人ばかりでなく、ある程度、日本語を教科書で勉強した外国人でも、役所や学校、医療機関の文書はわからないことが多いと聞きます。そうした文書について、初級段階の日本語の力があれば、完璧に理解はできなくても、エッセン・ス・くらいはわかる日本語を用いるべきと私たちは考えています。エッセンスが伝われば、「自分に関係しそうだから、もっと聞いてみよう」と情報入手のきっかけができるからです。実際に、日本語を学習中の人からも、情報やお知らせは「わかりやすい日本語で書いてほしい」という声が寄せられています³。

2010年にスタートした「わかる日本語」研究会では、先例を勉強しながら、東京都国際交流委員会のホーム

ページに掲載されている「外国人のための生活ガイド」から「転ばぬ知恵」などを選び、「わかる日本語」にする作業を行ってきました。メンバーには日本語ボランティアのほか、自治体や国際交流協会の人もいます。具体的には、目安として日本語能力の初級終了レベル（N4）から基礎レベル（N5）を念頭において、日常生活で使う言葉に置き換え、文を短くしたり、全ての漢字にルビを振り、文を分かち書きにするなどしてリライトを繰り返し行いました（上記囲み参照）。

それでもまだ、出来上がった文章には不十分さが残りま
す。ですが、研究会では活動のひと区切りとして、リライト作業の過程を冊子にまとめ
関係先に配布しました。また
冊子の内容をTNVNのホーム
ページに掲載しました。「わ
かる日本語」に関心をもった

人がやってみようと思ったとき、ヒントになればという願いからです。

このように、「やさしい日本語・わかる日本語」の取り組みは始まったばかりですが、身近な地域で使われ、多言語翻訳の動きとともに広がることができれば、多文化共生社会の実現に少しでも近づけるのではないのでしょうか。

——ありがとうございました。

取材・文 朝比奈ゆり

- *1 「やさしい日本語」作成のためのガイドライン／弘前大学人文学部社会言語学研究室 <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/ejgaidorain.html>
- *2 <http://www.tokyo-tcc.jp/topics/rhongo.html>
- *3 TNVN発行のニュースNo.73より

東京日本語
ボランティア・
ネットワーク
(TNVN)

<http://www.tnvn.jp>
E-mail:
webadmin@tnvn.jp